

(4) 保護者が外国籍の子どもの保育

今、子どもたちはさまざまな人や物が交流する国際化が進んだ多文化社会の中で生活しています。名古屋市においても外国籍の児童が地域の保育所で一緒に集団生活をおくることが増えてきています。

環境、文化、習慣の異なる外国籍の子どもたちが、混乱することなく保育所生活をおくするためには、子どもや保護者それぞれのニーズをその生活背景を含めて、総合的に受けとめる必要があります。

先入観を持たない乳幼児期にこそ、子どもたちが外国籍の子どもたちとふれあい、皮膚の色の違い、言葉の違い、生活習慣の違い等を素直な心で認めあえるように育てられることが大切です。

人権保育の視点

- ・ 言語、宗教、生活様式、習慣の違いを知り、認め合うことで自分や相手を尊重する心を育てる。
- ・ 文化の多様性や保護者の思いを理解して、親切・ていねいなコミュニケーションをこころがけ、保護者が安心して子育てできるようにする。
- ・ 日本の文化の中で育ちながら、自国の文化をうけ継いでいる人たちの存在を社会的歴史的背景を含めて理解する。

具体的な対応

- ・ 絵本などを通して、子どもたちがいろいろな国や人々と出会えるようにする。
- ・ 保育所の行事を通して、日本の文化にふれたり、母国の歌や踊りや遊びの交流をしながら、自然に子どもたちが共感をもって楽しめるようにする。
- ・ 保護者が安心して子育て相談のできる場所をつくり、保護者の思いをよく聴くようにする。
- ・ 保護者同士で通訳しあうなど、助け合える関係をつくる。
- ・ 子どもが将来、自国の文化や生活様式で生活できるように家庭での母国語による育て方を大切に受けとめる。

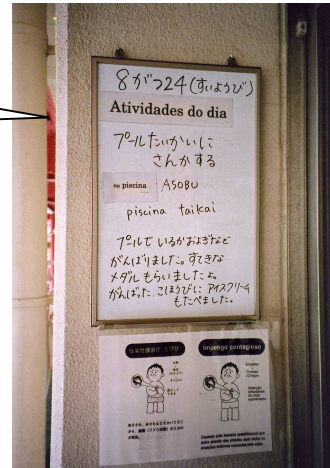
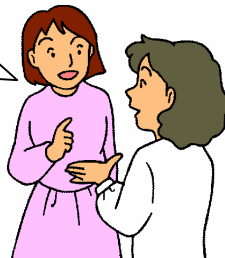
◆ 保育の事例

言葉

- ・ 日常のコミュニケーションは 身振り、手振りを交えてわかりやすくしたり、絵を描いて知らせます。園だよりや毎日の保育、おたより帳には、漢字にルビ（ひらがな、カタカナ）をつけたり、ローマ字などで知らせます。

保護者むけの毎日の記録をポルトガル語とひらがなで知らせています。

なるべく5時に来てください
→ 5時に来てください



肌 色



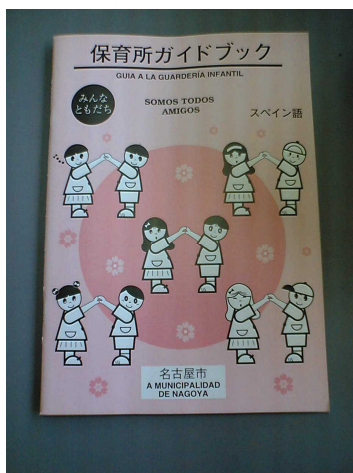
うすだいいいろ
(パールオレンジ)

日頃何気なく使っている肌色のクレヨンや色鉛筆なども、考え直してみると、どうして肌色というのでしょうか？肌の色は、さまざまな色があるはずです。

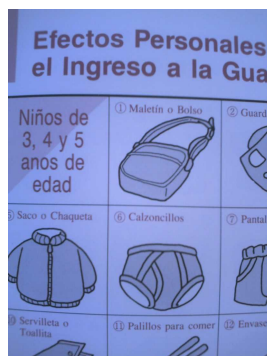
保育所ガイドブック

(英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル語版)

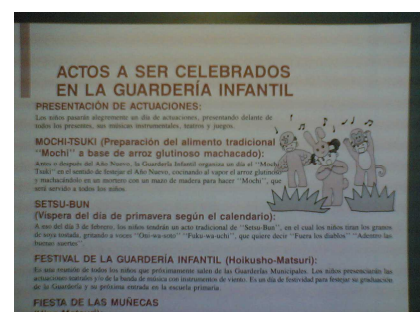
懇談会や園からのお知らせなどに、通訳ボランティアをお願いしています。



持ち物表



行事のお知らせ



食生活

- ・ 国や宗教の習慣によって食べられないものがあることを尊重し、除去食を用意したり、家庭から昼食を持参してもらう場合もあります。
- ・ 立てひざや手づかみで食べる文化もあること等を考慮します。
- ・ お弁当の習慣がない場合は実物や写真、本をみせたりします。

紙芝居づくり

- ・ 日常保育の中でおこった子どものいじわるや差別に気づくように、紙芝居を作りました。

①



『みんなよいこ』

②



「おはよう！」
「チビのチョロチョロ チョロッピー」
「ポチくんのいじわる
チョロッピーではないですよー」

③



「うまくん、やっつけてよ！」
「こまったな〜…」

④



「あしがいたいよ〜」
「いつもいじわるするからだよ」
「だれかおんぶしてあげて!」「やだよ!」
「じゃあ、ぼくがおんぶしてあげる」

⑤



「たすけてくれて ありがとう！」
「みんなにいじわるしてごめんね」
「友だちは、大きさや色やかたちが違ってても、
一人ずつみんないい所をもっているの」
「みんな大切ないい子なのよ」

行事を通して日本の文化とふれあう



こどもの日のこいのぼりを一緒に
に作りました。

自国の衣装を着て夏まつりを一緒に楽しんでいます。



社会的歴史的背景の理解

外国籍の人をめぐる偏見や固定観念がいまだにある中で、(本名を名乗れないなど) 在日外国人であることを明らかにしたくないと考えている保護者がいることも現実です。子どもや保護者の国籍にかかわらず、子どもを一人の人間として尊重していく社会を実現していくことは重要なことです。その一方で国籍など子どもや保護者の個人情報を守ることも大切です。その思いを共有して相手の心情をくみとる感性を大切にします。